

## 1. 基本計画の背景

武雄のまちには、温泉、やきもの、自然をはじめとする固有の地域資源や、今あるものを大事にしながらししいものを取り入れる気質、交通の要衝・西九州のハブ都市としての機能など、他のまちにはない特色があります。これらの特色を活かし、文化・アートをきっかけにした新たなまちづくり・にぎわいづくりの拠点として、武雄市文化会館および敷地エリアをより多くの人の交流やにぎわいを生む新文化交流施設エリアとして整備し、文化による変化をまちへ、その先へ発信していきます。

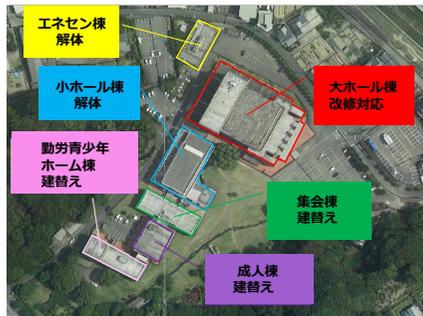
## 2. 新文化交流施設エリアを取り巻く状況

- **施設の成り立ち**
  - 旧武雄領主の別邸庭園を有する「文化の殿堂 西九州の応接室」として、昭和50年に開館。
- **市を取り巻く文化芸術状況**
  - 文化活動団体の高齢化、若者世代の文化活動離れ、世代間交流の不足 等
- **新文化交流施設エリアの課題**
  - 文化活動の体験・披露の場として親しまれてきたが、利用者が限られる。新たな交流創出の場が求められる。
  - 人口減少を見据えた施設の集約化や時代のニーズにあったエリア整備が必要。
  - 大ホールについては、近隣市町村における拠点施設としてのニーズがある。施設改修を行いさらに活用する。

## 3. 市民意見・関係団体意見の集約

- **新文化交流施設エリアについての意見・ニーズ**
  - 活動が外から見え、気楽に立ち寄りやすい雰囲気
  - 人と出会い・交流できる
  - 幅広い文化・アートに触れられる
  - 誰もが使いやすい施設 (ユニバーサルデザイン・バリアフリー対応)
  - 敷地内の特性を生かした回遊できる仕掛けづくり
  - 武雄市図書館・歴史資料館などの周辺施設との連携
  - 文化体験や学びの場、教育プログラム・育成機会
- **武雄公民館についての意見・ニーズ**
  - 公民館と分かりやすい配置、専用の入り口設置
  - 気軽に使える、交流できるスペース

## 4. 新文化交流施設エリア整備条件の整理



### 現文化会館の今後の整備手法

現文化会館各棟の劣化状況や現状抱えている課題をふまえ、下記のとおり整備の方向性をまとめました。

大ホール棟	長寿命化（機能維持改修）
小ホール棟	ホール機能を北方文化ホールへ統合し解体
集会棟・成人棟・勤労青少年ホーム棟	建替にて集約複合化、新文化交流棟として整備
武雄公民館	機能、スペースを確保
エネルギーセンター棟	個別空調を前提として解体

### 新文化交流施設エリア整備における留意点

新文化交流施設エリア整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・アートが身近に感じられ、人々が交流し、にぎわいを生む機能を新たに付加</li> <li>敷地の持つ特性を生かし、近隣施設との連携も高めた整備</li> <li>新文化交流棟整備中でも市民の文化活動が停滞しないよう努める</li> </ul>
武雄公民館設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>新文化交流棟に合築</li> </ul>
大楠周辺、黒門周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>塚崎の大楠周辺の活用、図書館・歴史資料館との連携</li> </ul>
庭園・各文化財の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>庭園および芝生エリアの活用を考慮した配置を検討</li> </ul>
構内道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全性に配慮した車両導線の整備</li> <li>既存駐車可能台数（300台）に加え、50台程度を追加</li> </ul>
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>武雄市地域防災計画における防災拠点として位置づけ、災害対策における必要な機能を確保</li> </ul>

## 5. 新文化交流施設エリア整備の方向性

目指すべきまちの姿（まちの進化論：文化のまちづくり構想から）

もっと開かれた もっと関われる もっとつながれる 文化が生きるまち

「新しい文化が生まれ、人々が交流し、にぎわう」新たな文化交流拠点の整備

### エリアコンセプト

文化・アートがもっと身近に！

**Cultural Fusion**

**“次世代”の武雄を創造する 文化“融合”施設エリア**

既存の文化と新しい文化が融合し、次世代を描く場  
枠にとられない「文化・アート」を創造する場  
それぞれの居場所で新たな「つながり」=交流を創造し、にぎわいを創出する広場

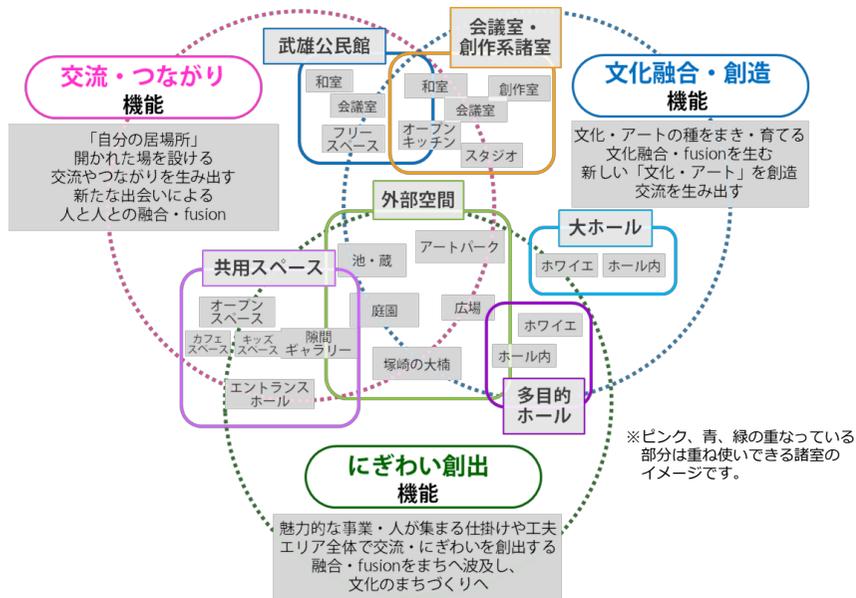
### エリア整備計画のイメージ



### エリアにおける整備の考え方

エリア内外に回遊性を生み出す・まちに開く	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館・歴史資料館との連携、まちなかの回遊性に留意</li> </ul>
既存要素を活かして新しいものをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の要素を活かした配置・外構計画</li> </ul>
人にやさしく・環境にやさしく	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザイン、持続可能な開発目標に留意</li> </ul>
今後50年間を見据える	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイクルコスト、社会潮流の変化を見据えた設備</li> </ul>
安全性を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の安心・安全の拠り所となる施設計画・外構計画</li> </ul>

【エリア施設機能イメージ】



6. 新文化交流棟・武雄公民館の整備方針

これまで文化会館が担ってきた機能を引き継ぐ部分、廃止する部分を明確にしつつ、エリアコンセプトである「Cultural Fusion“次世代”の武雄を創造する 文化“融合”施設エリア」を実現する新たな機能を導入していきます。文化・アートによる交流が盛んになり、まちににぎわいが生まれ、新たな文化が生まれ育っていく、エリアの要となる場として整備していきます。

武雄公民館についても、これまでの公民館機能の継続だけでなく、活動の進化や利用者の増加などを旨とした公民館としての在り方を検討していきます。

将来の人口減少に見合った集約化を図りつつ、諸室の重ね使いにより幅広い用途に対応できるよう整備します。

【新文化交流棟に導入する機能案】

多目的ホール	・ホール、ギャラリー機能も備える ・外部（庭園）とホール内一体的に活用
会議室（大1、中2）	・会議、研修会等やギャラリーとしても使用
創作室（2室）	・陶芸、美術、工作など多目的な利用に対応 ・アーティストが市民と交流しながら滞在制作
スタジオ（大1、小1）	・ダンス、楽器演奏、合唱等で使用想定 ・防音、簡易な照明音響設備を整備
オープンキッチン	・飲食スペースと隣接 ・ガラス張りで見えやすい中での活動が見える
和室（3室）	・水屋、炉を設置 ・3室つなげて大部屋として利用可能
エントランスホール／オープンスペース	・気軽に立ち寄れるよう自由に無料で利用可能 ・ギャラリー利用可能 ・キッズスペースの導入

【武雄公民館の諸室案】

会議室（大1、小1）	・会議や団体活動で利用
和室	・会議や団体活動で利用
フリースペース（交流スペース）	・ラウンジ利用を想定
<b>【面積案】</b>	
項目	規模
新文化交流棟 全体合計	3,000㎡程度
武雄公民館 全体合計	700㎡程度
<b>施設全体合計</b>	<b>約3,700㎡程度</b>

※現状延床面積の8~9割程度へ集約  
→諸室の「重ね使い」等により、面積を削減しながらも幅広い利用用途に対応

7. 大ホール棟長寿命化方針

大ホールは、1380名収容可能であることや音響設備の良さが評価され、全国規模の大会や各種文化的イベントの公演や市民イベントの実施などで活用されており、文化活動の中心的役割を担う、市民にとって特別な場として長く親しまれてきました。市民からは他にはない存在意義をもつため存続を願う声があり、公演者からも佐賀西部エリアにおいて独自の魅力を持つホールでの公演を希望する声が多く、大ホールの存続が求められてきました。

安全性・機能性を高めるための改修に加え、新文化交流施設エリアのコンセプトでもある「融合・fusion」を実現する機能を新たに付加することで、市民にさらに親しまれ、交流が生まれる場としての進化を目指します。

長寿命化方針の視点

現行法規への対応施設の安全性の確保	・耐震改修や特定天井対策 ・外壁改修 等
バリアフリー対応、機能改善	・エレベーター設置 ・トイレ改修 等
利用者ニーズに対応する舞台特殊設備等の更新・改修	・舞台音響、照明、吊物の改修 等
交流の場づくり、リニューアル感の創出	・ホワイエ内装改修、フリースペース化 等
ライフサイクルコストの低減	・空調電気設備更新 ・照明のLED化 等

8. 管理運営に関する考え方

あらゆる世代の市民が気軽に立ち寄り、絶えず交流が生まれる、にぎわいのある施設運営を目指します。“文化に関わる人づくり”を実現するため、市民参加・参画も推進していきます。

多様な機能を有する施設エリアであるため、管理や運営において適かつ柔軟に対応します。

運営主体や組織、利用規則、事業内容などの具体的方針については管理運営計画の中で検討します。

事業イメージ

A. 参加・普及事業	・気軽に参加できる活動の機会の提供 ・市民の文化芸術公演への運営参画
B. 体験・創造事業	・幅広い文化・アートに触れる機会の提供 ・まちの資源を活かした創作活動促進
C. 人づくり事業	・文化・アートを鑑賞、体験する機会の提供 ・将来の文化芸術の担い手の育成
D. まちづくり共創事業	・地域の文化資源の魅力発信 ・他分野間・広域連携によるにぎわいづくり
E. つながりづくり事業	・文化・アートに関する市民の情報発信促進 ・多世代、多文化間の交流・文化融合を促進

9. 概算事業費案

近年整備された施設事例等から、施設整備に係る概算総事業費を55億円程度（税込）と想定します。

10. 整備スケジュール案

新文化交流棟の開館および大ホール棟のリニューアルオープンについて、令和8年の秋を目指します。

